

対人援助学会第10回大会
テーマ「対人援助と地域エンパワメント」

対人援助学会は第10回大会というメモリアルな機会を迎えます。本学会設立の目的は、既存の医療・福祉・心理・教育等の学問領域を超え、広く「人を助け、エンパワメントを実現する」支援実践や臨床研究の探求を通じて、「対人援助学」(Science for Human Services)の創造という多職種の、学問と実践の「連携と融合」の舞台となることでした。

その実現のために過去の研究大会では、各方面で活躍する対人援助職や研究者がともに集い、連携や情報交換のプラットフォームを提供することで、ヒューマンサービスの真のプロフェッショナル育成や地域社会におけるセーフティネット確立などの支援・研究ネットワークづくりにチャレンジしてきました。

このような新しい知の構築をめざそうとする背景には、対人援助が制度や政策と同じく縦割りの発想になっていたことへの危機感がありました。クライアントファーストに、当事者とともにある知の創造をめざすことになったのです。人口減少や家族、地域社会の変容などによって従来の分野別に存在した支援制度では対応できない「課題の複合化」「制度のはざま」の問題を理解すること、領域横断的かつ包括的な支援の実現に取り組むということでもありました。

また、最近の情勢と関わっていえば、経済格差がもたらす競争主義や社会的弱者を狙い撃ちするヘイト(人権侵害)などの社会的分断や社会的排除、孤立への対応、「支援する側と支援される側」の固定化から対等な共に生きるパートナーシップへの展開、地域コミュニティの脆弱化に抗しての地域力の向上等が焦眉の課題としてあります。こうした問題の解決に資するために、生活現場である地域において包括的な支援体制である「地域共生社会」の実現をいかに果たすかが問題解決の重要なポイントとなり、対人援助に携わる私たちのアクションが求められています。地域が対人援助の焦点となっているともいえるでしょう。

すでに中央レベルでは、2016年7月厚労大臣のもとで「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部が設置され、同年10月から「地域力強化検討会」が開催され昨年9月に最終とりまとめが出され、2020年代初頭には「地域共生社会」の全面展開をめざすことが表明されています。しかし政府がいう「地域共生社会」の狙いは、公助としての生存権保障の放棄であり、地域社会に自助・共助を強要するというシビルミニマムの後退を意味するもので、その内容には批判的に検討する必要があります。

対人援助のフロンティアをめざす私たち対人援助学会では、国家によるトップダウンの地域共生とは異なる、人間の尊厳を護る立場からオルタナティブかつボトムアップの地域共生とは何かを考えるべく、大会参加者の皆さんと共に学び、意見交換を通じて、地域共生社会のビジョンや展望を考える場として本大会を実施していきたいと考えます。

第9回大会は「危機の時代のヒューマンサービス-地域と対人援助-」がテーマでした。ひきつづき第10回大会でも対人援助と地域を重視します。テーマは、「対人援助と地域エン

パウメント」です。これをもとにして、記念講演、理事会企画、特別事例報告、企画ワークショップ等を組織します。

記念講演では、長年、北九州市でホームレス支援に携わりながら、生活困窮者自立支援制度の実現などをはじめ全国におけるセーフティネット構築のリーダーとして活躍する奥田知志さん（牧師、認定 NPO 法人抱樸理事長、公益財団法人共生地域創造財団代表理事、一般社団法人 Colabo 理事、北九州市立大学 MBA 特任教授）をお招きし、「地域共生社会づくりと対人援助の課題と展望」について講演いただきます。

* 奥田知志さんのご紹介

路上でのホームレス支援活動の他、障害ある人や若者の就労訓練事業、受刑者の更生保護、そこから派生する障害及び介護福祉、貧困家庭の子どもの学習支援等の活動を地域で地道に展開されておられます。次のような言葉が印象的です。長くホームレスの社会復帰支援について支援してきたことを踏まえ、「私たちが抱き続けた問いは『果たして復帰したいような社会か』ということでありました」と語っている点です。この奥田さんの視点に学びたいと考えました。「路上のいのちに傾きつつも、では、どのような社会を目指すのかを真剣に考え、そのことに取り組みざるを得ないと思うのです。」とも指摘しておられます。そして、「貧困と格差、孤立こそが戦争を可能にするという心配が現実となりつつあります。戦場に行かざるを得ないのは、常に貧困層であり、差別や排除にさらされた人々であったことは歴史が証明しています。私たちは平和を目指します。平和な世界の構築のためにも、経済的困窮問題と社会的孤立問題、すなわち新しい地域社会の創造に取り組みます。」と話され、対人援助と社会的価値の実現との関係を鋭く問うています。講演では、社会のあり方とともに個人や地域社会のエンパワメントをミッションとされる実践の知見を深めたいと思います。（これらの発言は、「ホームレスを生まない社会を創造する／NPO 法人抱樸のホームページ」からです）。

主な著作（共著含む）は以下のようです。

『「助けて」と言える国へ ——人と社会をつなぐ』（集英社新書、2013）

『生活困窮者への伴走型支援——経済的困窮と社会的孤立に対応するトータルサポート』（明石書店、2014）

『もう、ひとりにさせない』（いのちのことば社、2011）